

症例1 51歳女性 食欲不振

1年前から、やる気が起きず倦怠感が続いている。4日前には回転性の眩暈を起こしたそうです。47歳で閉経しています。やや寒がりですが、手足の冷えはありません。食欲がない。便秘はありません。睡眠は良かったり悪かったりで、朝がすっきりと起きられない、という訴えでした。脈はやや沈んで弱く、舌質は正常紅で歯痕がみられました。上腹部を軽く叩くと、「チャポチャポ」と振水音が聴こえました。また両側の臍傍に圧痛がありました。

初診時：六君子湯^{りっくんしとう} 7.5g+香蘇散^{こうそくさん} 6.0g 分3

1週間後：「食欲が出てきた。体のだるさもグッと少なくなった」と喜ばれました。

【コメント】：年齢からみて更年期障害かと考えました。しかし、主訴は食欲不振と倦怠感です。気虚と考えて補気剤を処方したところ、速やかに食欲不振は改善しました。バチンと決まったときの漢方薬の即効性にはいつも驚かされます。

症例2 89歳女性 抑うつ状態・軽度認知障害

X年4月に白内障の手術をうけた。術後、期待したほど視力が回復しないことで落ち込むようになり、通っていたデイサービスにも行かなくなりました。翌年の5月頃より、不安や倦怠感を訴えるようになりました。7月に心療内科を受診して抗うつ剤を服用しましたが、逆に倦怠感が強くなり中止しました。精神科では軽度認知障害による抑うつ状態と診断されて抗うつ剤が再開されました。

在宅生活は困難と判断されて、10月に老健施設へ入所となりました。暑がりでも寒がりでもありません。食欲がなく、便秘気味です。不眠はありません。脈はやや沈んで弱く、舌質は暗赤色で薄い白苔を被っていました。腹力は中等度で両臍傍に圧痛がありました。(写真①)



写真①

初診時：^{かみきひとう}加味帰脾湯 7.5g + ^{ちだぼくいつぽう}治打撲一方 7.5g 分3

そして降圧剤以外の内服薬（加味逍遙散，六君子湯，酸化マグネシウム，エルデカルシトール，プラバスタチン，デュロキセチン塩酸塩，スルピリド）をすべて中止しました。

2週間後：食事摂取量が徐々に増えてきました。まだ便秘するといふので，酸化マグネシウムを再開しました。

4週間後：食欲は良好となり，便秘も改善しています。でも，まだまだ居室で過ごすことが多いようです。

12週間後：元気になり，日中はレクリエーションにも参加できるようになりました。家族から，「とても家でみるのは難しく，特養施設の入所を考えていたが，この調子であれば家に連れて帰ります」との連絡が入り，自宅へ帰られました。

【コメント】：^{かみきひとう}加味帰脾湯に^{ちだぼくいつぽう}治打撲一方を併用した理由は，^{ちだぼくいつぽう}治打撲一方に配合されている^{ちようこう}丁香を^{しんくんと}使いたかったからです。^{しんくんと}四君子湯に^{もっこう}木香（^{かみきひとう}加味帰脾湯に配合）と^{ちようこう}丁香を加えると，抑うつ傾向にある認知症に有用とされています。また，^{ちだぼくいつぽう}治打撲一方の^{せんきゆう}川芎と^{けいし}桂枝も上半身の血流を改善することから，脳血流にも良いのではないかと考えました。

症例3 39歳 女性 倦怠感

頑固な便秘と肩こりで通院していた患者さんです。通導散^{つうどうさん} 2.5g+桂枝茯苓丸^{けいしふくりょうがん} 1.5g 1×夕を服用することで落ち着いていました。9回目の再診時です。年末に耳介後部から項が腫れて痛んだそうです。耳鼻科を受診し抗生剤を1週間服用しましたが、リンパ節の腫れはとれず、とにかく疲れるということでした。脈はやや沈んで弱く、舌はやや暗赤色で薄い白黄苔がみられました。腹力は中等度で両臍傍に圧痛を認めます(この所見は以前からみられました)。

通導散^{つうどうさん} 2.5g+桂枝茯苓丸^{けいしふくりょうがん} 1.5g 1×夕は継続とし、疲れがひどいときに補中益気湯^{ほちゅうえつきとう} 5.0g+紅参末^{こうじんまつ} 1.0gを頓服するように指示しました。4週間後の再診時です。「頓服の薬を服んだら、翌日から身体が楽になった」と非常に喜ばれていました。

【コメント】 補中益気湯^{ほちゅうえつきとう}は頓服で効果があります。ひどい疲れには2倍量を服用するとよく、さらに紅参末^{こうじんまつ}を加えるのも有用です。